

第80回 東経新春情報会

御挨拶

総理通算在職日数の歴代最長を更新した安倍晋三首相ですが、経済運営では試練に直面し、日銀による金融政策は完全に行き詰まったとの指摘もあります。東京五輪後の景気後退シナリオが現実味を帯びる中、中小企業では米中貿易摩擦の影響で破たんするケースや今年も目立った「粉飾倒産」に銀行が警戒感を強め、引当金の積み増しに動いており、長らく続いた企業倒産の抑制はいよいよ転換期を迎えたのかもしれない。

恒例の情報会はおかげさまで80回目となります。第1部ではおなじみの吉崎達彦氏を迎えて、下記2部構成で開催致します。是非、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

第1部 「2020年の経済動向について」

株式会社双日総合研究所 チーフエコノミスト 吉崎 達彦氏



吉崎 達彦(よしざき たつひこ) 講師プロフィール

米国政治や外交・安全保障論に強いエコノミスト。“日本経済の行方”“当面の内外情勢を読む”“米国大統領選挙の展望”等のテーマで行う講演は好評。著書『気づいたら先頭に立っていた日本経済』（新潮新書）『溜池通信—いかにもこれが経済』（日本経済新聞出版社）など多数。

1960年 富山市生まれ。1984年 一橋大学社会学部卒業後、日商岩井株式会社入社。

広報誌『トレードピア』編集長、米ブルッキングス研究所客員研究員、経済同友会代表幹事秘書・調査役などを経て企業エコノミストに。日商岩井とニチメンの合併を機に2004年から現職。関心領域は日本経済、米国政治、外交・安全保障論など。

大阪経済大学客員教授、一般財団法人 国際開発センター理事、NPO法人 岡崎研究所理事、テレビ東京「モーニングサテライト」、文化放送「くにまるジャパン極」コメンテーターなどを務める。ウェブサイト『溜池通信』を主宰。フジサンケイグループから第14回「正論」新風賞受賞。

第2部 「注目企業300社の解明」

マスコミでは“危ない300社”として取り上げられ、与信管理担当者のみならず関心を集めています。東京経済が情報を収集した、様々な問題を抱える企業群から注目すべき300社を実名でリストアップし、問題点を簡潔かつ生々しく解説していきます。



- ▶ 日時 令和2年 **2月6日** 日**木** (開演13:00～16:30)
- ▶ 会場 **東京証券会館 8F 証券会館ホール** (東京メトロ 東西線・日比谷線「茅場町」駅 8番出口直結)
東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8 TEL:03-3667-9210
※駐車スペースが少ないため、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- ▶ 申込先 **東京経済株式会社 東京支社**
TEL:03-3544-6611 FAX:03-3544-6600
- ▶ 会費 **10,000 円** (※1名:当日会場受付 または お振込み)
※御名刺をご持参ください。

主催 / 東京経済株式会社 東京支社 代表取締役社長 / 越智 英雄 常務取締役東京支社長 / 越智 憲雄 〒104-0045 東京都中央区築地 3丁目10番2号 (第6東経ビル)

貴社名 _____ 御参加者 _____ ほか _____ 名

御住所 _____ TEL _____

お支払方法 (どちらかに○をお付け下さい) 当日現金・お振込み ▶ **FAX 番号 03-3544-6600**

当用紙をそのまま FAX してお申込み下さい

<HP掲載用>